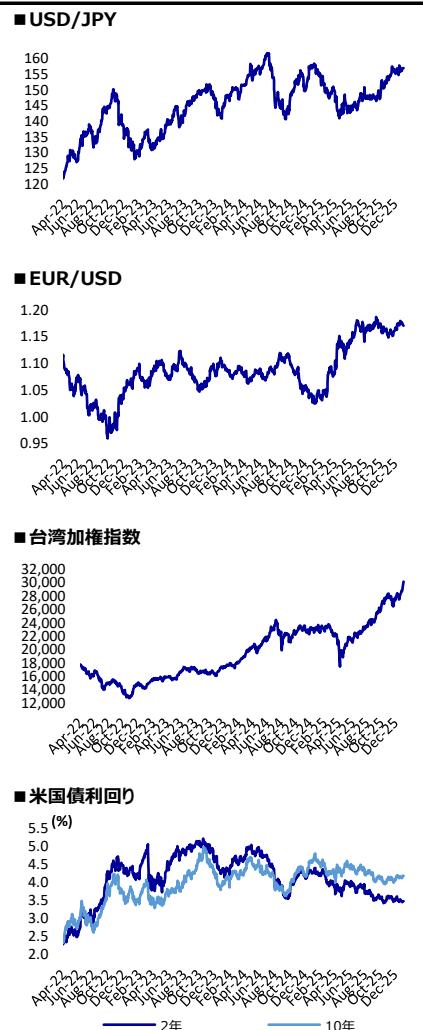
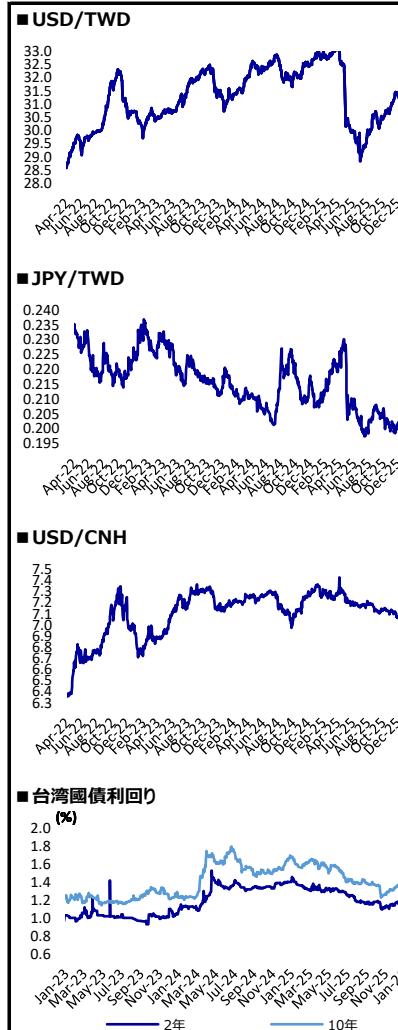


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のUSD/TWDはレンジ内で上値重い推移。週初12/29、USD/TWDは31.450で始値。台湾株式市場が6日連続で上昇し、再び史上最高値を更新したことを受け、台湾ドルは上昇。主に31.420～31.440のレンジで推移し、31.450で終了。30日は31.440で始値、中国による台湾包囲の軍事演習が2日目に入り、台湾株式市場は6日連続の上昇を終えたが、台湾ドルには影響なし。月末・年末の輸出企業のドル売りが31.360（週安値）まで下落し、中銀の流動性調整があり、31.428で終了。31日は31.430で始値、多くの市場が休場となっている影響で、取引閑散、台湾株式市場が再び過去最高値を更新したことにより、ドル売りが強まり一時的に31.405を受けたが、中銀による流動性調整があり、ドルは買い戻された。31.438で2025年の相場終了。1/1は元旦で相場休場。1/2は31.420で始値、多くの市場が休場で、午前には31.40前後で推移。午後には、台湾、韓国、シンガポールの株式指数が過去最高値を更新し、ドル売りが強まり31.360（週安値）まで。中銀による流動性調整があり、ドルは買い戻され、最終的には前週比0.11%ドル高台湾ドル安の31.419で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は254.8億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のUSD/JPYは小幅上昇。週初12/29、156.50円でオープンしたドル/円は若干もってか156.06まで下落する場面もあったが、その後は156円台半ばまで反発。年末に向けて動意に欠ける展開。海外時間に、注目の米経済指標発表が少ない中、米金利の低下や、米株の軟調な展開を背景に155.92まで下落。12/30、156.07でオープン後、四半期末に伴う実需のフローもってか156円台前半まで上昇。しかし市場参加者も限られる中上値を追う動きも限定。海外時間に、米12月シカゴPMIが市場予想を上回る堅調な内容となったことを受けてドル買いが優勢な展開となり、一時156.56まで上昇。12/31、東京休場。海外時間に、米新規失業保険申請件数、並びに米失業保険継続受給者数が共に市場予想を下回る良好な内容好感され、ドル買いとなり一時156.99まで上昇。その後は米株の下落等を背景に、僅かに上げ幅を縮小156.73まで。1/1、相場休場。1/2、依然として新年のムードであり、市場の取引は閑散。USD/JPYは156円台後半で小幅な値動きとなり、最終的には前週比0.13%上昇の156.81で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：31.250-31.650

今週のUSD/TWDはレンジ内の推移が予想。今週発表される米雇用統計が今後の方向性を示す材料となる見通し。また、地政学的リスクはドル高要因となる可能性があり、USD/TWDはレンジ内でやや上昇する展開を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：154.50-158.80

今週のUSD/JPYは底堅い推移を予想。米国のペネズエラに対する軍事行動など、地政学的な緊張の高まりがある中、有事のドル買いが考えられる一方で、相場急変や介入実施などにも警戒したく、底堅い推移を予想。

今週の予想

1/5 (MON)	米12月ISM製造業PMI、日12月S&P製造業PMI
1/6 (TUE)	
1/7 (WED)	台湾12月CPI、米12月ADP雇用統計・10月製造業新規受注、日12月S&Pサービス業
1/8 (THU)	米10月貿易収支
1/9 (FRI)	台湾12月貿易収支、米12月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。